

(IV-35) パーソントリップ調査の問題点とその改善策 —被験者の立場から

日本大学 正会員 島崎敏一

1. はじめに

わが国におけるパーソントリップ調査（以下、PT 調査という）は、1967年に広島都市圏においてはじめて行われ、その後、ほぼ毎年、各都市圏で調査が実施されるようになった。東京都市圏においては、1968年に第1回の調査が実施されて以来、10年に一度実施され、1998年10月-12月には第4回の調査が行われた。PT 調査は、都市圏の交通実態をマクロ的に把握し、長期的な総合的な交通計画策定のための基礎資料とすることを目的としている。しかし、交通計画に関する知識が乏しい一般の人を対象としているにもかかわらず、内容が複雑で、被験者に負担がかかるなどの問題がある。本研究では、被験者の立場から PT 調査の問題を指摘し、その改善策を提案する。

2. 調査の経過

(1) 調査依頼

平成 10 年 9 月に東京都知事名で「東京都市圏交通実態調査（パーソントリップ調査）ご協力のお願い」というはがきがきた。

その内容は、時候の挨拶に始まり、対象が東京都市圏であり、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、横浜市、川崎市、千葉市と協力して、人の動きの実態を調査すること、結果は総合的な交通計画の策定に活用されること、34 万世帯を無作為抽出した結果選ばれたこと、9 月下旬から 11 月下旬にかけて調査員が調査票を持ってきて調査方法について詳しく説明するので、協力するようという趣旨のことである。なお、表書きには、問い合わせの連絡先とフリーダイヤルの番号が記されていた。

(2) 調査票配布

1998 年 10 月 30 日の夕方に、調査員が調査票を持って依頼に来た。調査票は次の 3 種類で構成
キーワード：パーソントリップ調査、被験者
連絡先：〒101-8308 千代田区神田駿河台 1-8

Email: shimazak@civil.cst.nihon-u.ac.jp

Voice/Facsimile: 03-3259-0989

されていた。

- (a) 調査票個人票記入例： おもて面の主要なタイトルは、記入についてのお願い、記入のしかた、＜サラリーマンの場合＞の記入例、[例 1] サラリーマンの 1 日の動きであり、うら面の主要なタイトルは＜主婦の場合＞の記入例、[例 2] 主婦の 1 日の動き、記入上ご注意いただきたい動き、記入しない動き、表 1（施設の分類について）、表 2（目的の分類について）である。ここで挙げた順序は原則として各面の左上から右下への方向の順序にしてある。
- (b) 世帯票・自動車票： おもて面は、世帯票で住所の欄は丁目または字まで記入するようになっており、各個人については記入例と 6 人分の記入欄（性別、年齢、職業、産業、勤務先等の所在地、保有免許、自由に使える自動車の有無）があるほか、表 1（職業の分類）、表 2（産業の分類）がある。うら面は、自動車票で、世帯で所有する自動車の台数のほかに、記入例と 4 台分の記入欄（ナンバープレート、所有者、調査日の走行距離）がある。
- (c) 個人票： これは、教科書などに良く出ているものとほぼ同様であり、個人番号のほかに、出発、到着の施設の種類の、目的、交通手段、分単位の出発、到着時刻、荷物を運んだか、駐車場所などを聞いている。

なお、調査方法についての詳しい説明はなかった。調査日は、10月30日と指定されたが、当日に来て、朝からの行動を分単位で記入するのは無理であると考えたので、その旨を伝え、調査日は11月4日に変更された。調査票は11月6日の夕方に取りに来るのでそれまでに記入しておくよう依頼された。

(3) 調査票回収

約束の11月6日までに調査票を記入しておいたが、約束の時間までに取りに来なかった。実際には、数日遅れて取りに来た。

3. 被験者として感じた問題点

(1) 調査票配布時

調査票配布時には、ほとんど説明はなく、説明を良く読んで記入するようにということであった。せめて、後に調査票記入時の問題点で述べるわかりにくい点などについてだけでも、説明すべきであろう。

(2) 調査日

11月4日は、調査対象となったわが家にとつてばかりでなく多くの家庭についても特殊な日である。その理由は、11月3日が文化の日であり、多くの高校、大学などで学園祭が行われ、その代休として、休校になるところが多い。現に、この日のわが家族の交通行動は、通常の日とはまったく異なっていた。この点について、実施本部に電話で問い合わせたところ、問題がないというだけで、その趣旨に関する説明は一切なかった。

(3) 調査票記入時

全般的に言えば、1枚の記入例にすべての説明を入れようとしているために、非常にわかりにくくなっている。

細かい点を含めて問題点を列挙すれば、次のとおりである。わからない点については、調査員または調査実施本部に問い合わせるということ、これが説明書に書いてあるが、調査員への連絡方法は明記されていない。今回は、該当しなかったが、著者のように2つのキャンパスで教えている場合、トリップの目的の書き方が説明されていない。予備の調査票に記入するようにという指示がありながら、予備の調査票は配られていない。

また、著者はあらかじめ時刻記録用のメモ用紙を用意した上で、外出したが、それでも、分単位で出発時刻、到着時刻を特定するのは、困難である。その理由は、急いでいるときには、その場で記入できなかつたり、駅に到着したといつてもどの時点（駅舎の入り口か、改札口かなど）をもって到着とするのか迷うことなどである。

プライバシーに関する配慮が欠けている点も問題である。たとえば、自動車票の場合、ナンバープレートの番号をすべて書かせるようになっているが、登録地、車種番号、ひらがなだけで十分であると考えられる。また、自分で書いた調査票を

あとで良く見ると、どこで何をしたかがかなりの精度で特定できる場合が多いように思われる。

(4) 調査票回収時

約束の日時に調査票を回収に来ないことは、もっとも基本的な、言語道断な問題である。

4. 改善策の提案

(1) 調査記入要領

ページ数が増えても良いから、わかりやすくする必要はある。そのためには、例を増やすこと、別のところにある表を参照するように指示しているものについては、再掲になっても良いから、その場所に掲載するなどが考えられる。

(2) 調査日

特殊な日の行動を知る必要があるとは考えられないので、調査日については再検討する必要がある。少なくとも、質問があつたときには、その必要性について明確に理由を説明すべきである。

(3) 調査票記入方法

プライバシーに関わることについては、よく吟味した上で記入項目を再検討する必要がある。

分単位の行動を記録するのは、困難である。たとえば、調査専用のメモ用紙を添付して、使用してもらうなどを考える必要がある。また、たとえば、5分単位くらいで記入してもらい、集計、分析の段階で対処することを考えることも必要である。

(4) 調査票回収

当然のことながら、回収すると約束した日は、厳守する。これも、含めて調査員への教育が不十分なのではないかと危惧する。

5. おわりに

実際にPT調査の被験者となってみると、被験者に変な負担をかけていることが良くわかった。あまり協力的でない人はもちろんのこと、本当に協力しようという人でさえも、その調査結果には多くの誤差や過誤が含まれている可能性が高い。重要な調査であるからこそ、さらに工夫をして、被験者に負担をなるべく掛けずに、より良い結果を得る方法を考える必要がある。

参考文献

東京都市圏パーソントリップ調査調査票一式